

「JENESYS2.0」

中国青年公益事業交流団第2陣

訪問日程 平成29年3月22日（水）～3月29日（水）

1 プログラム概要

中国の体育・青少年教育、ボランティア、企業のCSR・文化財保護に従事する青年を中心とした、中国青年公益事業交流団第2陣（団長：唐 九紅（トウ・キュウコウ）中国宋慶齡基金会基金部 部長）計87名が、3月22日から3月29日までの7泊8日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京・兵庫・大阪を訪問し、スポーツ庁や損害保険ジャパン日本興亜株式会社、内閣府・文化庁ブリーフ、関係機関への訪問や関係者との交流を通じて、日本の各分野に対する理解を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通して「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

3月22日（水）

共通：羽田空港より入国、皇居・二重橋見学、東京タワー見学、オリエンテーション

3月23日（木）

第1分団：スポーツ庁ブリーフ

第2分団・第3分団：損害保険ジャパン日本興亜株式会社ブリーフ

共通：浅草寺・仲見世見学、中華人民共和国駐日本国大使館訪問、歓迎会

3月24日（金）

共通：内閣府ブリーフ、兵庫県へ移動、日本文化体験（和風旅館宿泊）

3月25日（土）

共通：孫文記念館見学、明石海峡大橋見学、人と防災未来センター視察

第1分団・第2分団：酒心館見学

第3分団：姫路城見学

3月26日（日）

第1分団・第2分団：あしなが育英会 レインボーハウス訪問、しあわせの村訪問

第3分団：神戸市立青少年科学館見学、北野異人館見学、酒心館見学

3月27日（月）

第1分団：大阪市環境局舞洲工場視察

第2分団・第3分団：こうべ環境未来館視察

共通：東京都へ移動、商業施設視察

3月28日（火）

第1分団：全日本空輸株式会社ブリーフ、NTC（ナショナルトレーニングセンター）訪問・視察

第2分団：東京ボランティア・市民活動センター訪問、日本体育大学訪問・視察、

駒沢オリンピック公園参観

第3分団：全日本空輸株式会社ブリーフ、文化庁ブリーフ、浜離宮恩寵庭園参観

共通：歓送報告会

3月29日（水）

共通：羽田空港より帰国

3 写真



3月22日
オリエンテーション (東京都)



3月23日
スポーツ庁ブリーフ(第1分団) (東京都)



3月23日
中華人民共和国駐日本国大使館訪問 (東京都)



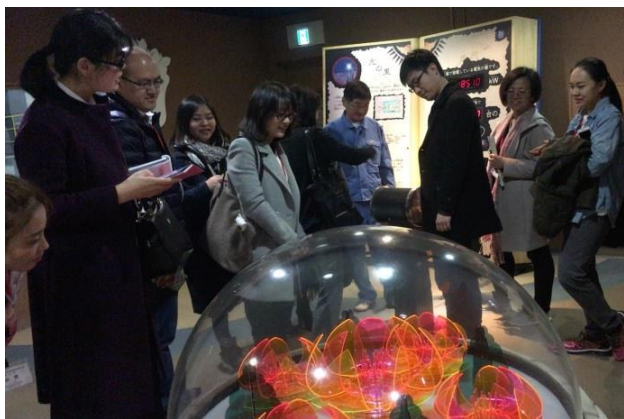
3月23日
歓迎会 (東京都)



3月24日
内閣府ブリーフ (東京都)



3月26日
あしなが育英会レインボーハウス訪問・視察 (第1分団・第2分団) (兵庫県)



3月27日
大阪市環境局舞洲工場視察
(第1分団) (大阪府)



3月28日
全日本空輸株式会社ブリーフ
(第1分団・第3分団) (東京都)



3月28日
東京ボランティア・市民活動センター訪問・視察
(第2分団) (東京都)



3月28日
文化庁ブリーフ
(第3分団) (東京都)

4 参加者の感想（抜粋）

○2017年3月に中国青年公益事業交流団の日中友好訪日活動に参加した。7日間の短い訪問であったが、さまざまな講座を受講したほか、温泉旅館で日本の庶民の暮らしを体験する機会も得た。7日間では一つの国を全面的に理解することは難しいが、客観的な事実を直接見聞きすることができた。

レインボーハウスの見学が最も印象深かった。親のいない高校生や大学生への活動のために設立された施設で、就学支援や心のケアを行っている。街頭募金を主な資金としている点が特徴的である。レインボーハウス内には、遊びの部屋、思いの部屋など、非常に変わった施設があった。子供たちはごっこ遊びを通して地震のシーンを再現することができたり、家族への恋しい思いを吐き出すことができたりするなど、遺児のための思いやりが感じられた。今後の生活の中で、中国国内の孤児に、より多くの思いやりを注ぎ、より多くの公益活動に参加して、思いやりを必要とする児童に奉仕したい。

帰国後は、この数日間で見聞きしたことを身近な友人や家族と分かち合いたいと思う。日本は、ルールを順守し、時間を守り、厳格、丁寧、勤勉、仕事熱心で、我々はこれを学ぶべきである。

今回の訪問交流の機会を与えてくれた日本側に感謝する。

○日本訪問期間中、スポーツ庁、内閣府、あしなが育英会、レインボーハウス、しあわせの村、ANA、NTC（ナショナルトレーニングセンター）を訪問し、日本のスポーツや公益活動について認識を深めることができた。

日本の慈善文化および公益事業の管理メカニズムを、多角的、多層的に理解することができた。今後の公益事業を行っていく上で非常に参考になり、啓発された。舞洲工場、人と防災未来センターでは、どのように大自然と調和し、防災意識を高めるか、どのように環境を守るのか、人類社会と自然の持続可能な発展の促進などの問題について、より深く考えるようになった。

中国宋慶齡基金会の一員として、偉人の足跡をたどり、孫文記念館を見学することができ光栄であった。孫中山先生の偉大さを感じることができただけでなく、中日両国民の友好の歴史をより深く理解することができた。

○今回の訪問では、多くの事柄を学んだ。具体的には以下の通り。

まず、ゴミ処理場や青少年科学館などを見学し、防災教育、科学普及教育でも、ごみの分別回収に関する教育でも、どれも小さいころからしっかりと教育しなければならないことがよく分かった。幼い頃からの教育が最も堅実で、望ましい教育である。

次に、内閣府と日本興亜損害保険株式会社の講座を受講し、CSR（社会貢献活動）の社会発展における重要な意義が分かった。企業の資源と資金力を合理的に利用できれば、社会に対し計り知れないほど大きな貢献をすることができる。

最後に、しあわせの村を見学し、日本の設備が整った老人福祉施設や人間本位のシルバー政策を学んだ。「幼い子が教育を受けられ、老人が扶養を受けられる」これが、自由で平等な理想社会が追求するところではないだろうか。従って、日本と同じように高齢化が進む中国にとって、これら人間本位の政策や整った施設は大変参考になる。

日本学の研究者の一人として、私は生涯中日友好のために力を尽くし貢献していきたい。

○1. 日本国民は民度が高い。東京、神戸の様々な街を訪問したが、都市でも農村でも、ごみ箱をほとんど見かけないのに、路上にはごみが少しもなかった。これは、日本国民の民度および意識の高さの表れであり、現在の中国では想像もできないことだ。

2. 日本は社会保障制度が整っている。日本興亜損害保険株式会社のブリーフでは、日本国内の社会保障（医療、介護等）が完備されており、国民が病気のために貧困に陥ったり、貧困のために危険にさらされたりする可能性が低いことを学んだ。

3. 企業が社会的責任を重んじる。CSRに関する様々な講座を受講し、日本の大企業が社会的責任を重んじ、日本の公益事業に大きく貢献していることが分かった。

4. 日本では災害が多く発生するが、被災後の再建が合理的である。現在は人々の防災意識が高く、緊急時の対策が万全である。

5. 日本は高齢化が深刻である。東京の街頭では、どこでも若者を見かけることができたが、神戸では若者人口が明らかに減少している。高齢化問題が日本の将来を脅かしている。

○日本興亜損害保険株式会社のブリーフでは、歴史ある保険会社が持続可能な発展の背景のもとにおける企業の社会的責任を重視し、熱心に取り組んでいることを知った。内閣府の「公益」に関する講義では、日本政府が休眠預金や Web 帳票の活用により捻出した収益を公益事業に投入するなど、絶えず革新を図っていることを知った。熱心な企業の取り組みや政府によるたゆまぬ革新は、ともに「ひたむきさ（専念すること）」の表れである。ひたむきさが無ければ最後までやり遂げることはできない。

神戸の人と防災未来センター、環境未来館、酒心館などでは、この「ひたむきさ」によるインパクト、美しさおよび伝承を感じ取ることができた。